

# あいさつ

---

矢野 重典  
(国立教育政策研究所 所長)

---

矢野 重典 (国立教育政策研究所 所長)

---

シンポジウムの開会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。この教育研究公開シンポジウムは、私ども国立教育政策研究所の調査や研究の成果を、教育現場の先生方並びに関係の方々 directly 還元して、教育指導法の改善や教員の指導力の向上にいささかでもお役に立てればということで、平成2年から開催し、今回で23回目を迎えることになりました。今回のシンポジウムは、本研究所が昨年12月に公表いたしましたPISA2003とTIMSS2003の結果を基に実施することとし、テーマを「国際学力調査に見る我が国の学力の現状と指導法の改善」といたしました。

皆さんご存知のように、PISA、TIMSSは、いずれも国際的な学習到達度調査で、本研究所が日本の調査を担当いたしております。また、私どもでは教育課程実施状況調査も実施しておりまして、このシンポジウムではこれらの学力調査の結果を基に、わが国の学力の現状を分析するとともに、指導法の改善について、パネリストの皆さんにご討議をいただきます。

今回、1月にシンポジウムの案内を本研究所のホームページに掲載したところ、北は北海道から南は九州まで、多数の参加申し込みをいただき、またたく間に定



員に達し、多くの方々に、このシンポジウムへの参加をお断りせざるを得ないという思いもかけない事態もございました。

シンポジウムの最初は、元文部大臣で、現在、日本科学技術振興財団の会長をしておられる有馬朗人先生に、先生ご自身が分析なさった成果を基に、「日本人の算数・数学と理科の実力と問題点」と題して、基調講演をお願いいたしております。先生の基調講演の後は、基調報告として、PISAとTIMSSの成果を、両調査にかかわりました研究所の研究官からご報告させていただきます。その後、基調講演、基調報告を基に、パネルディスカッションを実施いたします。パネリストは、本研究所で算数・数学と理科を担当している教育課程調査官に加えて、お2人の現場の教員の方々をお願いしております。そしてコーディネーター役は、日本科学教育学会の会長を務めておられる小川正賢神戸大学教授をお願いいたしております。

以上の内容によりまして、シンポジウムを開催いたします。なお、シンポジウムの後半で、時間が許せば、フロアの皆さまからもご意見を承りたいと考えております。最後までご協力をお願い申し上げます。開会のごあいさつといたします。